

総科で輝いている人  
◇ 紹介 ◇



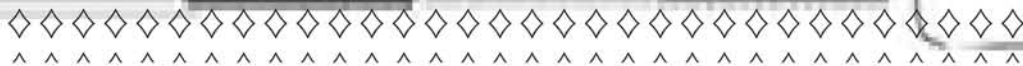
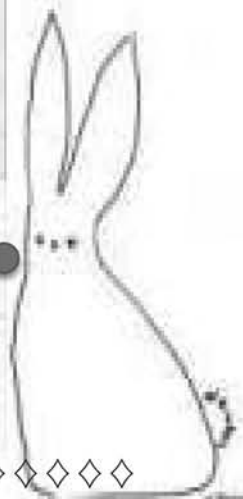
今回語ってくださった方々

自然環境科学プログラム専攻

都 賢太郎さん

人間探究領域所属

水津 ありささん



◇総科で輝いている人紹介◇

総科で輝いている人紹介!

都 賢太郎さん

自然環境科学プログラム専攻



「学生生活でがんばっていることは？」

一年生の時から継続してやっているのはボランティア活動です。一年生の時はオペレーションつながりというサークル、二年生から今にかけては学びの里というサークルに参加しています。オペレーションつながりは、もと

もと子供が好きだったこともあり、「山の日」という子供たちと遊ぶ企画に友達と参加したのがきっかけで、この団体は面白そうだと思うことになりました。学びの里は知人から紹介されたのがきっかけです。将来、就職しても土日などの時間を使って、子供たちと一緒に自然と触れ合うなどのボランティアをしたいと考えているので、いい勉強になると思いう学びの里に参加することにしました。三年生からは外部の団体が行っているボランティア活動にも参加しています。

「今まで行ってきたボランティア活動で印象に残っているものは何ですか？また、その中で大変だったことや、得られたものがあれば教えてください。」

印象に残っているのは、外部の団体が主催する三宅島の植林ボランティアです。広大内のサークル活動の場合は必ず知り合いがいます。が、この活動では広島から参加しているのは僕一人だけで、ほとんどの人が関東圏内の人でした。だから、最初に会場に行く時はとても緊張していました。会場に着くと、その中ではもうすでに仲がいい人のグループのようなものが出来上がっていて、自分が本当に一人のような気がしていましたね。参加者の人たちはみんないい人で、すぐに仲良くなれた

のは本当に良かったけれど、やはり最初のコミュニケーションは難しいと感じました。これが一番大変だったことです。

この活動によって得られたものは二つあります。一つ目は、参加者は関東の学生の他に社会人の方も多かったので、普段はなかなか交流できない人たちと話ができたというのは、やはり大きな収穫だったと思います。二つ目は、自分に自信がついたということです。今までずっと行動力が無くて、そんな自分に対してだめだなと思っていました。そんな自分を変えたいと思ってこの活動参加してみて、「自分何とかなるな、自分でもちゃんとできるな」って思いました。そのように自信がついたことで、これからどんどん他のことにもチャレンジしていこうと思えるようになりました。

「そもそも、自分を行動力のある人間にしたいと思った時になぜボランティアを選んだのですか？」

ボランティア活動はやらされているのではなく自分がやりたいから来ている人がほとんどで、モチベーションが高い人が多く、自分にとっていい刺激になると考えたからです。また、やりたいと思っただけで来ている人たちに話を聞いてみたいなと思いました。ボランティア

活動に対して人が持つ意見は様々で、そんな活動に何の意味があるのか思っている人たちもいます。ボランテアをしている人の中には、その温度差を肌で感じている人もいるのです。だから、ボランテアをしている人同士で話し合い、どうしたらボランテアにやる気をだしてくれるのかなどについて考えたいと思いました。

### 「将来の夢は？」

大枠としては、森林を保全することです。将来的には、木をずっと使える社会というのを目指したいです。木を育てて使えるようになるには、約40年から60年という長い時間がかかります。その期間の作業を自分一人でやるのはなかなか大変ですよ。しかし、今行っている学びの里でのボランテア活動を例に考えてみると、子供たちが自然と関わることができる機会を増やしてあげて、森林って面白いな、木って大切だなと感じてもらえれば、将来の世代が、森林について考え、林業をちゃんとやろうと思ってくれる可能性もあります。そのような形で持続的に森林を守ってあげたいと思っています。また、職業で言うと、国家公務員になって持続可能な林業のための政策などを考えるという形で森林保全をやるのかなと考えています。

「国家公務員という夢に向けて、ボランテア以外でやっていることはありますか？」

今はまだ漠然としているけれど、他の大学の森林を勉強している人たちと交流できるような団体を作りたいと考えています。今は色々な人たちに声をかけてもらっているところです。例えば、愛媛大学だったら、自分の友達の友達というつながりを利用して農学部の人を紹介してもらおうなどしています。その人たちには、夏休みや後期の時間を使って、自分が一度会いに行つて話をして、どういふことを考えているのかということをお互いに話し合いたいと思っています。そして、冬休みか春休みぐらいには、他の大学の人たちが広島に呼んで、将来の森林について語れるような交流の場を作ればいいなというように考えています。それを後々団体という形にしていき、自分の後輩やその先の世代にも繋がっていったら、後輩が他の大学の人と交流したいなと思つた時に僕が作った団体を利用して交流できるようになればいいのではないかと思っています。

「先輩は、総科畑というサークルに入っていると聞きました！」

以前から特に野菜に思い入れ

があつたというわけではありませんね(笑)総科畑という存在を知つて入つてみようと思つただけです。最初は野菜の知識なんてほとんどありませんでした。でも、先輩からたくさんのことを教えてもらつたり、自分たちで野菜を育てたりすることで、これまで知らなかつた野菜の育ち方や作り方を知る事が出来ました。例えば、トウモロコシは自分で作るとなかなかきれいに実が付きません。今年もトウモロコシを育てているのですが、今年こそきれいなものができるといいです！

### 「おすすめの授業はありますか？」

生態学という授業です。植生や生物多様性を学ぶことができます。あと、砂防学もおすすめです。砂防学とは、簡単に言うと土砂災害を防ぐ学問です。例えば、土砂崩れが起こる前段階に起こる現象から分析して、土砂崩れが起こりやすい場所が分かつたりします。現象というのは、小さい石が動くとか、崖になつている場所の穴から水が出てくるなどです。日常にも役立つ面があつて、ためになる授業だと感じています。

また、森林保全にはこれらの学問の知識を取り入れていきたいと思っています。例



えば、林道の幅を考えるとときに生物多様性が減る事のないように整備をすることに使えます。自分のやりたいことがはっきりしていると、どんなことでもそれに繋げて考えてしまいますね(笑)

### 総科生へのメッセージ

総合科学部で学ぶことは、社会に出たときに一つの武器になると思っています。総科を卒業し、企業に就職した先輩から聞いた話によると、総科生は他の学部生とは違って専門性が無いから、企業に入った当初は知識が追いついていないことがあるそうです。しかし、一年ほど頑張って勉強して追いついた時には、専門の知識もあり、幅広い知識も持っていることになり、アイディアの引き出しがたくさんあることになるのです。案を出さなければならぬ時に、専門的な知識しか持っていない人は自分の専門分野の範囲でしか考えられずなかなか案が出ないけれど、幅広い知識を持つていけば、広い視野によって知識と知識をつなげることが出来るので案が出やすいことが多いそうです。だから、広く勉強して就職してから深く自分の就いている職の専門性を身につけていけばいいと思います。

たしかに、他学部は就職の時に企業に自分

が専門でやっていることを分かってもらいやすいです。しかし、総科で何をやってきたかを聞かれた時に、こういうことをやってきました、しかもこんなことまで広く学んできましたと言えれば、企業側は自分に興味や可能性を見いだしてくれると思います。だから、広くやりつつもこれというものを見つけて取り組んでやっていくことも大事です。

それと、たくさん遊ぶのはいいことだと思います。自分も一・二年生の時は遊んでばかりでした。だから、一年の間に勉強とかバイトとか旅行、遊びなどを通して、将来の自分について模索していくといいと考えています。自分が今やっていることが、自分の目標にたどり着くために本当に必要なものなのだろうかと思うこともあるでしょう。けれども、それが一本の道になるわけだし、先輩たちがやっていない方法で自分は前に進んでいるんだと思つて取り組んでいくのもあります。無理なときはまた別の方法でやればいいし、もし引き返したとしてもそこでやったことほどこかで使えるはずです。特に総科だったらもう一個引き出しが増えるということにもなりますしね。将来の事を考えてそれに向かって頑張つてほしいです。

「やりたいことがあるけどなかなか踏み出せない人に向けてアドバイスをお願いします。」

自分のやりたいと思つていることを周りの人に言う、というのが効果のある一つの方法だと思います。周りに言つてしまえばもう引き返せなくなるし、聞いた人が自分の監視役になつてくれるからです。一方で、自分がつまづいたときとかにアドバイスをくれたり、何かの時につながりを作つてくれたりなど、サポートしてくれることもあります。いつ誰が協力してくれるか分からないので、先輩でも後輩でも、相談してみるのはいいことだと思つし、他大学の人と交流するつていうのもひとつの刺激になると思います。

自分のやりたいと思つていることを周りの人に言う、これをぜひやってみてください。そして、相談された人も親身になつて話を聞いてあげてください。僕で良ければ、いつでも話を聞きますので(笑)

【担当】26生 網野 瑞貴

26生 前田 絵礼奈

◇総科で輝いている人紹介◇



水津 ありささん  
人間探究領域所属

「これまで頑張ってきた主な活動は何ですか？」

留学したいなというきっかけで大学に入ったので、基本的には語学の勉強を中心にやってきました。また高校生の時に英語の教職免許を取りたいと考えていたので、今年の春から教職の授業も取っていてそれに関連して特定プログラムの英語の授業も取っています。

「英語の先生を目指したきっかけは何ですか？」

昔から友達に色々な科目を教えていたりしていて、その時に自分は教えるのが向いていると言われたりしたのがきっかけで目指し始めましたね。でも一番の理由は、自分が受験期になってからできました。元々自分の学校は推薦やAO入試などで大学に入学する人が多く真面目にセンター試験を受ける人は少なかったので、センター試験が終わってからは学校行って勉強するのは、ごく数人でした。その時に本当に支えになったのは、当時の英語の先生でした。その先生は自分につきっきりで教えてくれて、モチベーションを保つたのも先生のおかげでした。その甲斐もあって後期入試で広島大学に入学することができました。このことから、生徒を支えてあげ

たいという感情をもって大学で教職免許を取ろうと思いました。

「留学はやっぱり英語圏にしたいですか？」

結局学部四年間では本格的な留学には行かなくて、多分大学院で行くことになりました。やっぱり行くとしたらカナダやイギリス、オーストラリアなどの英語圏に行けたらいいなって考えています。北欧とかも考えていますね！留学とか関係なく旅行でも行けたらいいですね（笑）。

「大学の留学プログラムには参加したことがありますか？」

はい。大学生になってはじめて STARTプログラムを利用してオーストラリアに二週間ほど行きました。また、春休みに台湾ショートビジットで十日間ほど台湾に行ったりもしました。

「留学をして自分が変わったと思うところはありますか？」

オーストラリアに行ったときには水に対する考え方が変わりました。オーストラリアって結構先進国みたいなイメージがあるけど、水不足にはずっと昔から苦しめられています。



日本で考えると水資源は豊富だからあって当たり前みたいなイメージだけど、オーストラリアではこの地域でも水不足で一軒に一つ水を貯めるタンクがあつて、家によっては洗濯を週に一回しかやらなかったり、食器を洗剤で洗つて水で流さずにフキンで拭いたりしているところもありました。衛生的にはどうなの？と疑問に思つたりもしましたね。そういうところから水があつて当たり前ではない、大事にしようということを考えるようになりましたね。

「留学をして語学以外にも学ぶことが多かったのですね！」

そうですね…オーストラリアのホームステイで二週間位一般家庭のところにいさせてもらったので実際にオーストラリア人として生活している感じで、外国の習慣も体験できて新鮮な気持ちでしたね！台湾で一番びっくりしたことはトイレを流す時にトイレトペーパーを横にある箱に入れて流すことかな。もしそのまま流しちゃうと、水道管が詰まっちゃうからダメよつて言われましたね。最初は抵抗感があつたりして、ついうっかり流しちゃつた時には焦っていましたね(笑) まあ

大丈夫だったんだけどね。そんな感じでびつくりさせられる体験もできました。

「やっぱり留学しないと英語を話せるようになるのは難しい？」

ある先生に聞いた話では、日本にいても英語がペラペラになることも可能だし、実際に私の知っている先生は長期の留学をしたことがなくても通訳の資格を持っていたりします。今は語学学校でもネイティブの先生がいるから、機会があれば英語をペラペラになることは可能だし、チャンスもあると思います。今は、留学などしなくても英語をマスターすることは可能だと考えています。



「英語はどうしたら上手になれますか？」

(涙目)

それは…私も悩んでいます(笑) 流暢にしゃべる人、日本人で発音がきれいな人を見るといいなって思います。阿仁合先生の講義の英語発音法演習だと、発音専門の内容を学べるからおすすめてです。

日本は基本アメリカ英語だよな。オーストラリアだったら「Good day」を「ぐだーい」

つていうから、もう意味わかんないよね(笑) ホストファミリーの会話聞いてもさっぱりで発言することも難しかったから、ひたすらListeningしていました。

「留学先で不安に感じたことは？」

オーストラリアのホストファミリーは家族団らんを大事にする家族でした。ホストファミリーの夫婦と、インドネシアから来た先生二人と、私の五人でいつも一緒に晩御飯を食べて、その後にひたすらいろんなこと話しました。私はその日を振り返ったり、英語の勉強の話をしたりしたかな。ホストファミリーはエンジニアで、技術関係の難しい話をしてくる時があるんだけど、日本語でもわかんないよね(笑) インドネシアの先生たちがどんどん返答して会話が進んでしまうから、私も言いたいことがあるのにうまく言えなくて、そのまま話が変わったりしちゃって。そういうのはすごく歯がゆかったです。でもそれが英語を上達させようっていう向上心につながりました。あとはジェスチャーとかを使ってコミュニケーションをとりました。

「語学習得で難しいと思うところってどこですか？」

今苦戦しているのは発音かな。日本人にとって英語の発音がいかに難しいかを教えてくれる講義が総科にあります。発音が苦手な理由を説明することができます。その改善方法も学ぶことができます。それを実践すれば直るかなあと頑張っています(笑)

リスニングにも苦戦したかな、リーディングの方は元々得意だったけど、聞き取りは慣れなくて。でも、自分で TOEFL の勉強を重ねていく分だけ力がつきました。またオーストラリアでホストファミリーと会話するとき英語を聞いて、理解して、それを英語に変換して発言する…というプロセスのスピードが短くなっていくのをすごく実感できました。また、後期に留学生と一緒に受けられる講義があつて、そこで仲良くなった留学生と週一で近況を話し合ったり、トピック決めて話したりして練習しました。とにかく積極的に英語に触れて慣れることに取り組みました。アクティブに動いて、どんどん機会をつくっていくことが大事です。何事も前向きに楽しくいきたいですね！

「英語の勉強のモチベーションはどうやって保っていますか？」

英語を勉強として意識するんじゃないくて、「英語って楽しい！」って思えることが大事だと思うよ。好きな洋楽を聞いたり、英語のドラマを観たりするのって楽しいの。洋楽の好きな歌を歌えるようになりたい、字幕なしで観られるようになりたいという気持ちで勉強へのモチベーションが変わると思うよ。好きになる努力していたら、いつの間にか楽しくなっていくかもしれない。

私は英語に触れる機会を増やしたくて ESO に参加しています。スピーチ、ディスカッション、ドラマの三つのセクションがある中で、あたしはスピーチセクションに入っています。今年も新入生が入ったから、だいぶ規模大きくなって50人くらいでやっています。気軽に楽しめるのでお勧めです！

「最後に、総科の学生に一言お願いします。何事も楽しんでください。勉強のことを勉強って認識するのではなくて楽しいものだと思うしながら進めると、そうじゃないのとは全く違うから。」

英語って、日本語と同じ一つの言語だし伝え方はたくさんあります。だから、英語が話せないから勇気が出ない、勇気が出ないから留学まで一歩踏み出せない…っていうのはす

ごくもつたいない。紙に絵を描いたりしても伝わるから、留学できるチャンスをとにかく利用しましょう。留学先でストレスを感じたり歯がゆかったりするのはいつらいから、英語を勉強してから留学する人もいるし、目標に向かって少しずつ経験を重ねていくと何か新しいことが発見できるんじゃないかなと思います。

#### 【担当】

26生 竹内音寧

26生 尾関寛之

26生 関よしの

A

B

C